

# 高山市文化財保存活用地域計画（概要版）

【認定日】令和7年7月18日

【計画期間】令和7～16年度  
(10年間)

【面積】2,177.61km<sup>2</sup>

【人口】約8.2万人

【関連計画等】

ユネスコ無形文化遺産  
「山・鉾・屋台行事「高山祭の屋台行事」」(H28年度)  
日本遺産「飛騨匠の技・  
こころ-木とともに、今に  
引き継ぐ1300年-」(H28  
年度)  
歴史的風致維持向上計画  
(第三期、R7～16年度)



## 推進体制

市民	
所有者等	各文化財の所有者、管理者 各文化財の所有団体、管理団体
行政	文化財課（主管課）、各支所地域振興課、 地域政策課、観光課、直営文化財施設 等
地方文化財審議会等	高山市文化財審議会、高山市伝統的建造物群 保存地区保存審議会
関係団体	保存団体、岐阜県文化財保護協会、飛騨・高 山観光コンベンション協会、高山商工会議所、 まちづくり協議会 等
文化財保存活用支援団体	
教育研究機関	小・中・義務教育学校、大学 等

## 歴史遺産や伝統文化の特性

### (1) 自然の恵みを活かす 周辺地域との交流と山国飛騨の起こり

本市は大部分が森林であり、山の恵みとして狩猟採集に適した様々な生物を育み、旧石器時代以降、山国飛騨に人やモノの交流を通じて他地域の文化がもたらされ、独自の文化も織り成されてきた。

### (2) 素材の良さを活かす 飛騨匠の技と心

奈良時代の律令体制のもとに定められた飛騨匠の制度は、素材の良さを活かす飛騨匠の技と心として現代に受け継がれている。

### (3) 地の利を活かす 中世の動乱と金森氏によるまちづくり

中世の動乱を治め、飛騨を領国とした金森長近は、交通の要衝である高山盆地において、地の利を活かしたまちづくりに着手した。

### (4) 東西の文化の良さを活かす 高山城下町のあゆみ

城下町高山は、飛騨地域の政治・経済の中心地として街道を通じて人、物資、情報が集まり、江戸や上方の文化を取り入れながらもそれに独自の磨きをかけた文化が形づくられた。

### (5) 人々のつながりを活かす 農山村の暮らしと文化

険しい山地に囲まれた飛騨の農山村集落は、集落民の連帯や他地域との交流によって、地域の特産品や伝統行事などの、特色ある産業と独自の文化を培ってきた。

## 指定等文化財件数一覧

種別	国指定	国選択	県指定	市指定	国登録	計	
							指定・選定
有形文化財	建造物	15	-	15	77	21	128
	絵画	0	-	5	42	0	47
	彫刻	3	-	16	106	0	125
	工芸品	3	-	7	60	0	70
	書跡	0	-	5	32	0	37
	典籍	0	-	1	7	0	8
	古文書	0	-	0	87	0	87
	考古資料	2	-	4	46	1	53
歴史資料	0	-	3	27	0	30	
無形文化財	0	-	0	8	0	8	
民俗文化財	有形の民俗文化財	4	-	4	38	0	46
	無形の民俗文化財	2	1(1)	8	21	0	32(1)
記念物	遺跡	5	-	16	105	0	126
	名勝地	0	-	1	10	0	11
動物、植物、地質鉱物	6	-	32	109	0	147	
文化的景観	0	-	-	-	-	0	
伝統的建造物群	2	-	-	-	-	2	
計	42	1(1)	117	775	22	957(1)	

指定等文化財は957件、未指定文化財は5,883件把握

## 【基本目標】知り、守り伝え、活かす飛騨高山の歴史遺産や伝統文化

### 課題

### 方針

### 措置の例

## 個別目標A 「知る」 全ての世代への歴史遺産や伝統文化の理解の推進と愛着の醸成

### 1 調査や価値付け

○民俗文化財、古文書や歴史資料等の分野の把握調査が不十分である 等

○大学などの研究機関や専門家と連携して把握調査や研究を進める 等

### 2 教育普及や情報発信

○文化財施設と学校教育とのより一層の連携なども求められている 等

○学校教育活動で活用できる学習プログラムの充実や、普及・啓発を進める 等

### 6 歴史資料の整理、目録作成

歴史資料保存団体との協働により市有歴史資料の整理を行い、目録を作成する。  
■行政、団体企業  
■R7～16



## 個別目標B 「守り伝える」 歴史遺産や伝統文化の着実な未来への継承

### 3 保存

○保存と活用のバランスをとりながら整備を進める必要がある 等

○保存活用計画（保存管理計画）に基づく適切な保存と活用を推進する 等

### 4 保存展示施設

○歴史民俗資料等の整理を行い効果的な活用を進める必要がある 等

○市所有の歴史民俗資料等について、整理の方向性や価値付けの基準を明確にし、活用を進める 等

### 5 保存環境整備

○周辺環境も含めた一体的な措置を講じるにより、歴史文化資源の魅力を高めることが必要である 等

○説明板や案内表示等は歴史文化資源や周辺の環境と調和したものとする 等

### 6 連携した取組

○行政、関係機関等と連携した継承の取組を進める必要がある 等

○保存団体等による保存・活用の活動に対し、行政から助成や指導・助言を行う 等

### 7 体制づくりや人材育成

○伝承芸能等、地域の歴史文化資源の継承や活動が課題になっている 等

○関連団体等との連携により保存・活用体制を整備し、活動や取組へ継続的に支援を行う 等

### 8 防災・防犯

○ハード・ソフト両面から災害リスク軽減の対策を講じる必要がある 等

○関連する計画や指針に基づき、歴史文化資源の防災対策を進める 等

### 21 松倉城跡等の整備・活用方針作成

保存と活用のバランスのとれた松倉城跡等の保存活用計画、整備計画を作成する。  
■行政、市民  
■R7～16



### 30 伝統的建造物群保存地区拡大の取組

伝統的建造物群保存地区を拡大し、より広く伝統的建造物群を保護する。  
■所有者、行政  
■R7～16



### 55 高山祭の屋台行事等の祭礼行事を維持継承するための仕組みづくりの検討

高山祭の屋台行事等の祭礼行事を維持継承するための仕組みづくりを検討する。  
■行政、団体企業、所有者  
■R7～16



## 個別目標C 「活かす」 歴史遺産や伝統文化の活用と、活用できる人づくりの推進

### 9 活用

○活用が行われていなかった資料について、新たな活用や継承につながる意識の高揚を促す取組が必要である 等

○講演会や、研究機関と連携したワークショップ、展示会等を開催することにより、保存意識の高揚を図る 等

### 10 活用するための人づくり

○地域の歴史文化を語り伝えていくための人材を育てる必要がある 等

○郷土の歴史や文化の語り手となる人材を育成することで、後世への継承を図る 等

### 74 有形の民俗文化財の公開活用

特別展等の開催による有形の民俗文化財の公開活用を図る  
■行政、市民、教育研究  
■R7～16



# 8つの関連文化財群が語るストーリー

## ①今に生きる城下町高山の町人文化と高山祭

城下町高山は成立以来、飛騨の政治・経済・文化の中心地として繁栄し、街道を通じて人、物資、情報が集まった。旧城下町は、伝統的な町並みをはじめ近世・近代の歴史的な建造物が多く遺り、屋台組が基礎となり高山祭の祭礼行事をはじめとした独自の町人文化が継承されている。



## ④人・モノ・文化を運ぶ - 飛騨を支えてきた歴史の道 -

市内にある主要な五つの街道は、近世以降現代に至るまで、少しずつルートを変えながらも飛騨の交通・流通を支えている大動脈だった。江戸時代の人や物資の往来は、街道沿いの集落へ江戸や京・大坂などの様々な文化を伝えてきた。



## ⑦山国に生きる - 農山村の暮らしのかたち -

飛騨は急峻な山々に囲まれ、冬が長く厳しい気候である。飛騨に暮らす人々は農業を生業の中心としながらも、集落民の結束と周辺地域との交流によって、様々な生活の知恵と工夫を活かし、集落ごとの独自の特色ある産業を培ってきた。



## ②木の国、山の国に育まれた 飛騨匠の技と心

豊かな自然と雪に閉ざされる厳しい冬の気候によって、飛騨では山と一体となって暮らす生活文化や木を生かす技術を育んだ。飛騨匠の技術と感性は、古代から現在まで受け継がれ、高山の文化の基礎となっている。



## ⑤強者(つわもの)たちの夢のあと - 中近世の城館 -

飛騨の戦国時代は、各地で小領主が割拠し対立と抗争を繰り返す、やがて三木氏や金森氏といった強力な戦国大名により統合された。小領主により造られた規模の小さい山城が、経済、文化の中心である大きな城郭へと変遷する過程を見ることができる。



## ⑧山里に響く祭ばやし - 祭礼に関わる芸能と文化 -

豊かな自然環境と地域の生活や文化との関わりを通じて、飛騨の各地域で祭礼やそれに関する多種多様な芸能が生まれた。これらの祭礼や一連の神事芸能は、地域の人々によって現在も大切に受け継がれている。



## ③古代の飛騨国とその成り立ち

狩猟採集の生活から農耕生活に変わり土地に定着することにより地域のまとまりが生まれ、さらに古墳時代は権力を持つものが現れた。7世紀には古代寺院造営が盛んに行われ、その後律令政府によって国分寺も置かれた。遺跡から飛騨の国の成り立ちとその様相を見ることができる。



## ⑥山への畏れと祈り - 山岳信仰の諸相 -

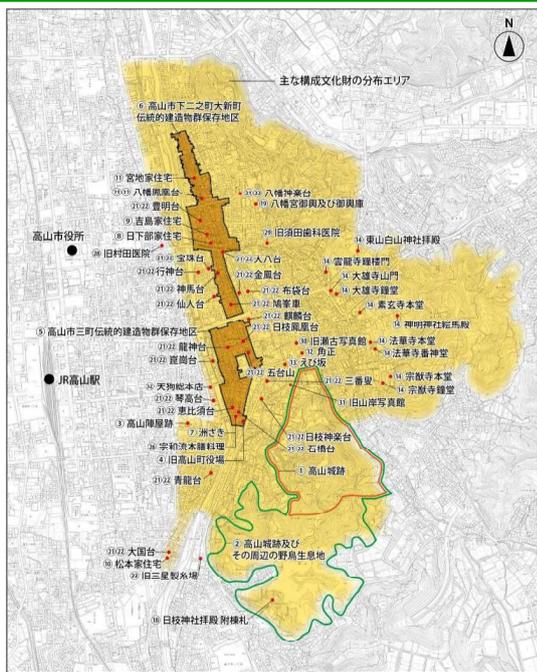
山と深い関わりを持って暮らしてきた飛騨の人々は、山を時には畏れ、時には敬って暮らしてきた。山の恵みを受けつつ、その山を崇め、さらに近代になるとスポーツとして登山を楽しむまでになった。



## 【関連文化財群の例】1 今に生きる城下町高山の町人文化と高山祭

**概要** 金森氏が整備した城下町高山は成立以来、飛騨地域の政治・経済の中心地として繁栄し、街道を通じて人、物資、情報が集まってくる中で独自の文化が形作られた。高山祭はその代表的なもので、飛騨匠の技術の結晶である屋台は高山の文化を象徴するものである。また、屋台組というコミュニティは、祭だけでなく日常の助け合いや共同作業、町並み保存活動など人々の日常生活の基礎となっている。こうした特色ある地域組織によって、祭礼行事をはじめとした町人文化が継承されるとともに、城下町から続く伝統的な町並みも受け継がれ、現在も生きているのである。

### 構成文化財



### 関連文化財群に関する課題

- ・子どもが自然な形で伝統文化に参加できるよう、保存活動に対する支援策を講じる必要がある
- ・店舗化の進行は夜間人口の減少を招いており、地域の防災・防犯対策の面でも対応する必要性が生じている等

### 関連文化財群に関する方針

- ・屋台組などの活動、伝統文化、伝統技術を継承していくための支援体制・方法の検討を進める
- ・伝統的建造物群保存地区の防災計画について今後の社会状況を見すえた見直しを行う等

### 関連文化財群に関する主な措置

#### 55 高山祭の屋台行事等の祭礼行事を維持継承するための仕組みづくりの検討

高山祭の屋台行事等の祭礼行事を維持継承するための仕組みづくりを検討する

- 行政、団体企業、所有者
- R7~16

#### 64 伝統的建造物群保存地区防災計画の見直し

伝統的建造物群保存地区防災計画の見直しを行う

- 所有者、行政
- R7~16

